

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572709582		
法人名	有限会社 一輝		
事業所名	グループホーム康々園		
所在地	秋田県横手市平鹿町浅舞字伊勢堂84-1		
自己評価作成日	令和5年12月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和6年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の中にあり、ご近所の方々と様々な場面で触れ合える事を大切にしています。敷地内には遊歩道・畑があり、ホールの大窓からは園庭を眺められます。園庭には栗の木と柿の木があり、園庭や畑を通して四季折々の風景を感じ、秋にはたくさんの収穫を楽しむ事ができます。また、積極的に外出の機会を作り、季節を感じて頂いたり、状態に応じて気分転換を図れるよう支援しています。園内にてレクリエーション活動を通し、利用者様の活動の場を増やし、理念に掲げているよう、ご利用者様一人一人のペースを大切に、安らぎのある家庭的なホームを目指し、日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

100歳を超えた方を含め、高齢層の利用者が生活しています。身ざれいにして皆と一緒にホールで過ごしていることも多く、在籍年数の長い職員構成の中でユニット間の連携を図りながら、柔軟で丁寧な支援が行われています。一人ひとりに合った対応をするためにその人を理解することに努め、日頃の気づきを大切にアセスメントに繋げています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の介護理念をもち、理念に沿った介護を実践できるよう、日々取り組んでいます。ホーム内には理念を掲示し、定例会議の際に職員一同で唱和を行うことで、いつでも意識付けができるようにし、職員1人1人が心掛けて支援を行っています。	経験年数の長い職員が多く、利用者一人ひとりの思いに寄り添い、その人のペースを大切にしたケアが実践できるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛けた際など、地域の方々と挨拶を交わしながら交流を深めています。また、ご近所の方が野菜を持って来てくださったり、園で採れた果実等を持って行くなどして、これまでと変わらない交流も続いています。	神社の祭礼行事で山車が敷地内で披露されるようになりました。町内の方による訪問理容等、以前と同様にご近所とのお付き合いは続いており、地域との繋がりは保たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	散歩の際に、地域の方々と挨拶を交わしながら交流を深めたり、ご利用者様と一緒に近所の公園やスーパーに出掛けたりしながら、事業所の取り組みについて理解を深めていただけるよう、努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様・ご家族様の参加を促し、これまでの取り組みを報告すると共に、サービスの改善に向けた検討を行っています。また、会議での意見や助言については議事録にまとめ、職員で閲覧し、サービスの向上に活かしています。	職員だけの会議が続いており、会議メンバーへは資料送付にとどまっているため、会議が運営に活かされておられません。	会議を運営に活かすためにも多方面から意見がいただけるよう参加者の拡充を図ると共に、書面会議であっても資料送付にとどまらず、意見、提案が得られる工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にできる限り参加していただくようにしています。また必要に応じて連絡を取り合い、相談事項等に都度対応していただいています。定期的な介護相談員の方の訪問もあります。	市担当部署との相談事項にはメールで対応していただいています。また、介護相談員を通じて情報収集し、業務に繋げていくことができるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束に関する取り扱い要綱を定め、職員に周知しています。また、身体拘束防止委員会を設置して活動しています。身体拘束をしないケアについては、日々の業務の中で都度話し合いを行ったり、勉強会を行うなどしながら、理解を深められるよう取り組んでいます。	日頃から状況に応じて対応を話し合い、身体拘束、虐待に繋がらないよう取り組んでいます。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、権利擁護を利用されているご利用者様がいらっしゃった為、制度に触れる機会がありました。制度の内容を再確認すると共に、権利擁護に関する研修会に参加し、必要性に応じて制度を活用できるよう支援していきたいと思っております。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時に十分に説明し、ご利用者やご家族等の不安や疑問点について尋ね、納得・理解をしていただいた上で、書面への記入を行っていただいております。また状態の変化に応じて、その時々々に説明を行っています。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	面会や行事へ参加された際に、ご家族様と話し合える時間を設けています。また、日々の会話の中から意見等を聞き取り、反映できるよう取り組んでいます。面会が難しい家族様とは電話で連絡をとり、要望等を聞き取りするように努めています。	電話や面会の際に、利用者の状況を報告しながら意見の引き出しに努めています。内容によっては医師とも相談し、対応しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	運営会議には出来る限り代表者が参加し、職員の意見を聞く機会を設けており、意見を出来る限り反映できるよう取り組んでいます。また年に1度、代表者・管理者との面談を行っています。	日頃の職員の意見は管理者を通じて代表に伝えられ、運営に反映できるよう取り組んでいます。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム情報交換会や市南部の情報交換会に出席して、同業者の意見を聞きながら情報交換を行っています。また、同業者の意見交換会や勉強会にも参加し、サービスの質の向上につなげられるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者や介護支援専門員が面談し、ヒヤリングを行なっています。また、職員が日々の会話の中から聞いた事や感じた事をミーティングにて話し合い、より良いサービスにつなげていけるよう対応しています。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や介護支援専門員が面談し、ヒヤリングを行なっています。また、面会時に日頃の様子をお伝えしたり、電話等を通してお話を伺い、関係作りに努めています。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として接するよう常に心掛け、日常生活の中で、食事作りや洗濯畳み等の家事をご利用者様と一緒にしています。また、身体機能の維持の為、ご自分でできる事はしていただき、できない事はサポートしながら関係づくりに努めています。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊等の希望に対しては柔軟に対応しています。また、それぞれの家族関係についても理解し、時には家族様の協力を得て、ご本人をサポートできる関係を築いています。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	遠方の方もおり、ご利用者様によって差はありますが、ご家族様や親類の方とは定期的な面会や電話、手紙等を通して、継続した関係を築けています。	家族の協力を得ながら、これまでの習慣や従来の関係を大切にしたい支援が入居後も継続できています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の座席に配慮し、気の合うご利用者様同士と一緒に作業を行っていただいたり、職員が間に入り、関係がさらに深められるように支援しています。またその日の気分で、自室で過ごしたい場合などは、要望に応じて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でも新たな生活先が見つかるよう、他の関係機関と連携を図りながら支援しています。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、ご本人様の希望や意向を汲み取り、ご本人様の望む生活が送れるよう配慮しています。また情報が共有できるよう、日々のミーティングにて皆に周知するように努めています。	個別に話を聞いたり、日頃の様子を観察して思いの把握に努めています。職員の気づきも多く、記録や申し送りを通じて共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、関係機関より、入居前の面談・アセスメントを行ない、暮らしの把握に努めています。また、ケアに活かせるよう職員に周知するように努めています。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	担当職員のモニタリングを基にカンファレンスを行い、ご利用者様・ご家族様の意向、職員の意見を参考にして介護計画を作成しています。また、状態変化時はその都度カンファレンスを開催し、介護計画を作成しています。	居室担当が中心となってモニタリングし、カンファレンスで他の職員と意見を出し合い、家族の意向も確認して現状に沿った介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個人記録や支援記録にその都度、具体的に記入するようにし、職員が情報を共有できるように毎日ミーティングを行なっています。また記録を元に、介護計画の見直しに活用できています。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の意向や必要性に応じて、ご近所、警察、消防、医療機関へ日常的に協力を依頼しており、有事の際にはご協力いただけるように努めています。また、近隣のスーパー等と一緒に買い物へ出掛けたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様のご希望にできる限り添えるよう支援しています。受診時は職員が付き添い、その都度ご家族様へ受診結果を報告しています。また、協力医による往診や訪問診療も行なっています。	本人、家族の希望に添ってかかりつけ医の受診を継続し、医師と良好な関係を築きながら支援しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤勤務しており、日々の相談や、助言や指導を受ける事が出来るような環境となっています。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人様ならびにご家族様が不安を抱えることなく、安心して治療に専念できるよう、入退院時は医療機関への情報提供や相談等を密に行っています。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を契約時に説明しています。ご家族様も含め、24時間連携が取れるよう体制を整えています。また、ご本人様・ご家族様・主治医・看護師・職員が十分話し合いの場を設け、園内では出来る範囲の中で、意向に添った支援ができるよう努めています。	家族の協力を得ながら、意向に添って支援しています。看取り後の職員のケアを行いながら支援に取り組んでいます。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が周知しています。また、定期的に「消火訓練」「避難訓練」を実施し、緊急時に対応できるよう努めています。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署やご近所の協力の下で「避難訓練」を実施しています。役割分担を明確にし、避難誘導の方法や通報装置、消火器等の使用方法について学び、全職員が体験して身につけるよう努めています。	水害時の対応を話し合い、夜間想定訓練も実施していますが、職員が現状に不安があることを管理者は認識しています。	重度の方が多きことを踏まえ、運営推進会議を活用する等して話し合ったことを具体化すると共に、協力者を確保し、利用者、職員の安全な避難に向けた取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活暦や性格を把握し、自尊心に配慮した声掛けや対応をしています。入居期間の長いご利用者様も多く、馴れ合いの接し方にならないように注意して対応しています。	その人を理解することに努めて一人ひとりのペースを尊重した対応を心がけ、声かけの仕方にも配慮しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様が希望される美容院への送迎を行ったり、ホームに来ていただいたりしており、かかりつけの美容院へ定期的に通われている利用者様もおります。化粧をしたり髪をセットされる利用者様もおり、ゆっくり支度していただいています。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の能力に応じて、出来る範囲の中で職員と一緒に調理や盛り付け等を行っています。また、視覚でも食事を楽しんでいただけるよう盛り付けに配慮したり、季節の食材を取り入れた行事食なども提供しています。	行事食では食べたいものを聞いたり、折詰弁当を手配したり、普段の食事でも利用者の楽しみに繋がるよう配慮しています。庭でとれる柿で毎年干し柿を皆で作っています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師免許を持った職員が中心となって献立を立ており、バランスのとれた食事を提供しています。また、持病や好き嫌い等にも配慮し、別食も提供しています。食事・水分の摂取量を記録し、把握に努めています。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、ご本人様ができない部分を支援させていただいています。また、義歯は夜間お預かりし、洗浄剤にて毎日義歯洗浄を行っています。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、排泄パターン・尿量等の把握に努めています。また、排泄間隔や表情・しぐさをみながら声掛けを行い、トイレ誘導をする事で失禁や失禁後の不快感を減らせるように支援しています。	介助の必要な方もおりますが、自立している方が多く、個々の力や習慣を活かしてトイレでの排泄を支援しています。チェック表を活用し、現状が維持できるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表に排便を記録し、間隔をみながら下剤等にて排便コントロールをしています。また、下剤に頼り切りにならないよう、水分摂取量の把握・向上や、身体を動かす機会をつくる等、個々に応じた対応をしています。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2~3回、及び希望時は随時入浴できるよう支援しています。入浴の順番やお湯の温度、体の洗い方等、ご利用者様の要望に応じて対応しています。また入浴前はバイタルチェックを行い、健康状態に合わせて清拭等も行っています。	個々の希望に合わせて柔軟な支援が行われています。湯舟に入ることが困難な重度の方が増えてきており、そんな方にもゆっくり入浴していただきたいの思いから、設備の改善を代表に申し入れているところです。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調や眠気に応じて、静養していただいています。安心して静養していただけるよう、居室内の温度や湿度、照明の明るさ等に配慮しています。定期的によりネン交換を行い、清潔な寝具で休めるよう支援しています。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師・看護師を通じて、定期薬の把握・変更に対応しています。個人記録に服薬内容・副作用等を記入し、職員全員に周知し、理解に努めています。また、症状の変化等を注意深く観察し、記録に残しています。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯量みや掃除、調理等、できる家事に参加していただき、生活意欲を引き出せるように支援しています。また、日々のレクリエーション活動や行事等を通して、楽しみのある生活を送っていただけるように支援しています。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化や天候に応じて、可能な限り希望に添った外出支援を行っています。ご利用者様と一緒に、近隣のお店に買い物に出掛けたり、少人数で外食に出掛ける等の支援を行っています。	散歩に出かけたり、個別の希望に応じて外出しており、ホームに閉じこもったままにならないよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の管理能力を把握し、ご自分で管理できる方に関してはご本人様にお任せしています。また買い物の際は、職員が付き添いにて支払いをしています。欲しい物など希望があった際は、職員が代行して購入することもあります。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを心掛けており、ご利用者の作品や季節感のある飾りつけをしています。また、体調管理を考慮し、加湿器・空気清浄機を設置している他、定期的に掃除や消毒を行い、清潔保持に努めています。	季節や行事に応じて大きく引き伸ばした写真を展示し、利用者が関心を寄せて会話の一助になっています。これからの季節は床暖房による乾燥に気をつけ、居心地の良い空間となるよう努めています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファ等配置を考え、個人または気の合うご利用者様同士の空間が作れるように配慮しています。また、窓際が好き・テレビの見やすい席が良い等、できる限りご利用者様の希望に合わせて対応しています。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等のご自宅を使い慣れた物を持ち込んでいただいで生活されています。また、ご家族様の写真やお花等、好みの物を置くなどして居心地よく生活できるよう支援しています。安全面に配慮して家具を配置し、環境整備に努めています。	位牌に毎日水をお供えている方や家族の写真飾っている方等、利用者それぞれが自分の生活環境をつくっています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりを設置し、安全な歩行を支えています。また、台所がホールから見える位置に配置してある為、調理している音や、焼き魚の匂い等、家庭に近い雰囲気生活できるようになっています。		